

年間第二主日A

ヨハネ 1・29-34

皆さん、私たちはいまもまだ、クリスマスの喜びの中にいます。イエスの愛に満たされていると強く感じています。ところで、典礼暦では、私たちはクリスマスの喜びの時を経て、この日曜日から年間の暦にもどり第二の主日を迎えます。日本語では、「年間」と呼びますが英語では **ordinary time** と呼びます。**Ordinary**とは普通を意味します。けれども私たちは普通の主日を迎えているのではありません。毎主日は普通ではなく毎主日は特別な日です。

私たちは時として、日常的なこと、平凡なことを重要視せず、非日常的なことを重要視する傾向があります。ですから、普通の時間とは、単なる時間ではなく、私たちにとってとても大切な時間なのです。しかし、この平凡な時間の中で、私たちは平凡な時間の流れる世界の中でキリスト教的な生活を送ろうとするのです。この平凡な時間の中で、私たちは自分がキリスト者であることをどのように証することができるのでしょうか。

今日の福音書で、洗礼者ヨハネはイエスが誰であることを証しました。次の箇所では、彼はイエス様を見て、こう言いました。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。『わたしの後から一人の人が来られる。その方はわたしにまさる。わたしよりも先におられたからである』とわたしが言ったのは、この方のことである」。(ヨハネ1・29-30)

そして最後に、「わたしはそれを見た。だから、この方こそ神の子であると証したのである」と言いました。(ヨハネ1・34)

今日、私たちは洗礼者ヨハネから何を学ぶことができるのでしょうか。三つのことに注目しましょう。一つは、ヨハネが繰り返し、「わたしはこの方を知らなかった」(31, 33)と言っていることです。イエスがだれだか知らないというのです。ところが、聖霊が天からくだりイエスの上にとどまるのを見ます。その聖霊によって、ヨハネは、イエス様が誰であるか、つまり神の子であることを知ったのです。もう一つは、ヨハネはイエスが自分にとってどのような方であることを証しているということです。さらに、ヨハネは自分でイエス様を見たこと、聖霊がイエス様のうえに下るのを見たこと、つまり見たすべてのことを証していることです。

今日、私たちは皆、イエスを証するためにも召されているのです。もし私たちがイエスに従う者であるなら、私たちの生活の中でイエスを証しなければなりません。私たちは、日常生活の中で信仰を証しすることがそれほど簡単なことではないことを知っています。しかし、証しする方法はたくさんあります。今日、私はキリスト教生活を送る上で大切なことをいくつか紹介したいと思います。

第一は、「自分の人生を主に捧げる」ことです。イエス様が私たちを救ってくださり、命を与えてくださっているのですから。私たちの人生の主はイエス様です。仕事、家族、時間など、人生の特定の分野を主に奉げるということではありません。自分自身のすべてを主に捧げることです。私たちは、主の証人となるために、自分自身のすべてを主に奉獻することです。そのとき次のような簡単な祈りをすることができます。「主よ、私はあなたに身を捧げます。私の人生で出会った人々に、主を証しすることができるように助けてください」。

第二は、「人々のために祈る」ことです。私たちが人々のために祈ることは、とても大切なことです。主は人々が救われることを望んでおられます。私たちは次のように祈ることができます。

「主よ、私は私の友人でない人々のために祈ります。主よ、私の友人のために祈ります。主よ、私が彼らにあなたについて話すことができますように、私に言葉を与えてください。また彼らがあなたのことを聞くことができるよう、彼らの心を開いてください。主イエスよ、彼らを守り、救ってください」。

第三は、「私たちが見て、聞いたイエス・キリスト、私たちが体験したイエス・キリストのことを話す」ことです。人々に証しするために、私たちは説教する必要はありません。また、神様について聞かれるかもしれない質問に対して、すべての答えを持っている必要はありません。使徒ヨハネは第一ヨハネ1章3節でこう言っています。

「私たちが見、また聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。」ヨハネは、自分が見たり聞いたりしたことをそのまま書き記したのです。同じように、私たちはイエス・キリストについて見聞きしたこと、つまり、私たちが主に会って経験したこと、イエス様に喜びを与えられていることを話すことができます。例えば、イエス様が私たちのために十字架にかかってくくださったこと、イエス様が私たちを救ってくださったことを話すことができます。また、イエス様が今、私たちの内に住んでおられ、いつも私たちと共におられることを話すこともできます。

第四は、「さまざまな方法で、人々にイエス様について話す」ことです。私たちの周りにはいる人々に証しする方法はたくさんあります。機会もたくさんあります。例えば、私たちは、主イエスを証しするために、知り合いに短いメッセージを書くことができます。私たちの救いの経験や、主が私たちの人生にどのように働いてくださっているかについて書くことができます。

今日、私たちは、日常生活のなかで、ひとびとに自分が見て聞いたイエス様のことを証しできるように、主に祈りましょう。また、私たちは勇気を持って、日常生活で出会うすべての人々に、イエスの愛について語るができるように祈りましょう。

Lazun naw-san Vincent (pime)